



た、2001年12月に議長に就任した「ゴミゼロながさき推進会議」の活動においても、市民団体や事業者側の諸団体のさまざまな意見を調整し、ゴミのない資源循環型の長崎県を目指して活動していくことの必要性を各委員に認知させ、行動に結びつけている。その結果、長崎県のゴミの量は明らかに減り続けている。氏がこれまでごみ問題に対して果たしてきた役割は、非常に重く貴重なものである。

また、教育学部教授として独自の論理で創り上げた「授業学」を基にし、環境教育の実践とその授業評価から、先の命題に取り組んでいる。この授業学の中で、「伝えることの構造化」が何より必要であると指摘している。

氏は、全国で推薦される3R推進マイスターの有志が集まり、「ゴミ問題」と「環境問題」を繋ぐ構造化を図りたいと考えている。このようにごみ問題に対する実績もあり、志もある人を3R推進マイスターに推薦することは、今回の趣旨にも合致するものと考えている。